

建設業倒産

4カ月連続400件台

10月不動産不況、中堅に打撃

民間信用調査会社の東京商工リサーチが11日発表した倒産集計によると、10月の建設業の倒産は402件（前年同月比3・0%増）で、4カ月連続で400件台となった。建設業では新井組、井上工業、山崎建設の上

場3社が倒産。不動産不況や金融不安などを背景に、Jリート（不動産投資信託）初の倒産として、ニューシティ・レジデンス投資法人が破たんし、ダイナシティなど新興マンション業者の倒産も相次ぐなど不動産業者の業

況悪化が波及する形で中堅建設業者を追い込む構図が続いている。

業種別の倒産件数は、総合工事業が247件（同0・4%減）、職別工事業が99件（同41・4%増）、設備工事業が56件（同22・2%減）だった。前年同月との比較では、北海道と北陸で倒産件数が大きく増え、原因別では受注不振が全体の約7割を占めた。負債10億円以上の大型倒産が前年同月よりも40%増となっており、同社は「（倒産が）中堅企業にまで広

がりをみせている」と分析している。

一方、帝国データバンクが同日発表した10月の倒産集計では、建設業の倒産件数が324件（同4・9%増）と05年4月以来で最多となった。今年7月と並ぶ水準に達した。不動産業の倒産も48件（同20・0%増）と06年3月の55件に次いで2番目に高かった。

全産業の倒産件数は、1231件（同13・7%増）で、05年4月以来で最も多くなっている。今年1月～10月の累計は

1万0524件になった。

集計対象は、東京商工リサーチが負債額1000万円以上、帝国データバンクが法的整理案件となっている。